

2022/8/1-2

(書直し版 うとQ世話し 見当違いで逆効果) 書庫版



人は思っている以上に遥かに優れた想像力がある。

高いアンテナとレーダーを備えている。

今迄見誤っていた。

というのがしばらく前に気づいた事です。

今迄はそれに気づかなかった分、もっと率直に申せば「完全に見くびっていた」分大きな過ちを犯し相手に圧迫や不快感も与えていたようです。

その第一は「説明過多」の過ち

文章を書けば読者に対して、家庭内教育では子供たちに対して説明をし過ぎ、却ってノイズを発生し、読者には息苦しさを、息子たちには反感を抱かせてしまった様です。

特に家庭内では

「考える前に言うな」

「誘導は止めろ」

と相当な反発を食らいました。

その第二は「見せ過多」による不快感

正確には「見せ過多的説明過多」

アンテナやレーダー感度がこちら側の想像以上に高い多くの方々からみれば「何も言わなくても見ればわかる (感じる)」ので、それだけで十分なのに、それ以上敢えて口にしたりパフォーマンスしたりした時点で完全に「過多」「過剰」「嫌味」「これ見よがし」としてしか捉えられていない事に気付いていなかったのです。

記憶や印象に残してもらいたいがためにしている行為が、却って記憶や印象に残す事への「拒否反応」を起こさせてしまっている。

だとしたら、聞き手、見手の感想は、受け手の想像力、感得力を信頼するだけでいい。

一言で申せば

「やる事だけやって、後はお任せする」

その方が余程いい結果が得られる、と思うに至りました。